

## 雇用保険二事業に関する懇談会議事要旨

日時：平成27年6月26日（金）10:00～12:00

場所：職業安定局第1・2会議室（中央合同庁舎5号館）

出席者：遠藤和夫氏、輪島忍氏（日本経済団体連合会）、木村賢治氏（野村ホールディングス株式会社兼野村證券株式会社）、加藤篤志氏、小林信氏（全国中小企業団体中央会）、小林治彦氏（日本商工会議所）

議題：平成26年度の雇用保険二事業による事業の評価について

議事：

- ・ 事務局より、資料に基づき説明。
- ・ その後、出席者より主に以下のような発言があった。

### 【主な発言】

- ・ d 評価の事業については、原則として廃止されるべき事業であるので、要因分析を行った上で、当然に事業廃止という選択肢も視野に検討し、そこまで至らない場合であっても、安易に目標を下げることによって達成しやすくするというような修正にならないように、少なくともb評価が得られるような取組をどうやって行っていくのか検討すべき。
- ・ c 評価の事業についても、原則、事業の在り方を見直すということだが、高い目標水準を維持しつつ、事業執行率や政策効果を高めていくことで改善していくべき。そういった改善の目処がつきにくい事業については、廃止を含めて検討していくということが基本的な考え方ではないか。二事業の懇談会を通じた PDCA サイクルをより厳格に運用して改善につなげていただきたい。
- ・ PDCA サイクルを回しているが、平成26年度の事業の評価が出ても、すでに平成27年度の事業は走っている。結局、26年度の評価を反映させるのは平成28年度ということになるので、PDCA サイクルの回し方を微調整できないか。
- ・ 二事業懇談会について、第1回目と第2回目が近接した形で開かれているが、第1回目の懇談会の際、27年度の目標についての意見交換をし、出てきた意見を踏まえた調整を第2回目の懇談会開催時点でも行われていることを考えると、直近の実績も出てきているかと思われるので、それらを踏まえての微調整もタイミング的にはあり得るのではないか。
- ・ 2年連続してa評価になっているものを見ると、直近の実績がかなり上回っているにもかかわらず目標の数字そのものを据え置いているという事例も幾つか散見される。可能な限り実績を踏まえるような形での目標設定をしていただきたい。
- ・ 一般財源と雇用保険二事業の財源をもって実施する事業、言うならば、雇用保険二事業に合わないような事業もかなり増えてきている。一般財源の投入についても十分に財政当局と御検討いただきたい。
- ・ 目標達成度が高く予算執行率も高い事業をa評価、目標等を達成し予算執行率が低い事業をb評価としているが、民間の感覚から言うと、安い予算で目標を達成できた方がより望ましいという考えもある。今後の考え方に入れていただきたい。